



熊本市 感染症発生動向調査 速報

新型コロナウイルス(COVID-19)の情報は上記のQRコードから。

● 侵襲性肺炎球菌感染症について

侵襲性肺炎球菌感染症は、肺炎球菌による侵襲性感染症(本来無菌環境である部位から起因菌が分離された感染症)のうち、この菌が髄液または血液から検出された感染症のことをいいます。髄膜炎、菌血症を伴う肺炎、敗血症などが特に問題とされており、小児および高齢者を中心に患者報告があります。

2013年4月から5類感染症の全数報告になっており、2019年の熊本市の報告は22件でした。

◆ どんな病気？

【小児】小児の肺炎球菌感染症は、そのほとんどが5歳未満で発生し、特に乳幼児での発生に注意が必要です。

主に気道の分泌物により感染を起こし、症状がないまま菌を保有(保菌)して日常生活を送っている子どもも多くいます。集団生活が始まるとほとんどの子どもが持っているといわれる菌です。抵抗力の低下や、粘膜バリアの損傷などにより、菌が体内に侵入すると侵襲性感染症などを発症し肺炎や中耳炎、敗血症、髄膜炎等になったり、あるいは血液中に菌が侵入するなどして重篤な状態になることがあります。特に髄膜炎をきたした場合には2%の子どもが亡くなり、生存した子どもの10%に難聴、精神発達遅滞、四肢麻痺、てんかんなどの後遺症を残すといわれています。

【高齢者】高齢者の肺炎球菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約3~5%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が何らかのきっかけで進展することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

・潜伏期間…不明

・感染経路…患者のくしゃみなどのしぶきを吸い込むことによる飛沫感染です。

・流行期…通年

◆ かかったらどうすればいいの？

・抗菌剤が有効ですが、近年耐性菌も多く報告されています。

◆ 予防法は？

・ワクチンの接種が有効です。かかりつけの医師にご相談ください。



肺炎球菌は日常的にかかる肺炎の原因菌の中で一番多いと言われています。

期 間		2020年 8週		2020年 9週	
		2/17~2/23		2/24~3/1 (最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	▲	54	2.16	30	1.20
RSウイルス感染症	▶	2	0.13	2	0.13
咽頭結膜熱(プール熱)	▶	6	0.38	4	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▶	31	1.94	26	1.63
感染性胃腸炎	▶	57	3.56	45	2.81
水痘(みずぼうそう)	▶	14	0.88	9	0.56
手足口病	▶	8	0.50	12	0.75
伝染性紅斑(りんご病)	▶	12	0.75	8	0.50
突発性発しん	▶	6	0.38	6	0.38
ヘルパンギーナ	▶	1	0.06	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	▶	1	0.06	2	0.13
急性出血性結膜炎	▶	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	▶	7	1.40	4	0.80
細菌性髄膜炎	▶	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	▶	0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	▶	2	0.40	1	0.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	▶	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▶	0	0.00	1	0.20